

大
臣
蔵
務
省
印

日蘭會商ノ經過要覽(五)

(九一二二六)

月 日	摘 要
十一月七日	越田「ヘルデレン」兩氏委員會報告書(日蘭移牒第一九八號ニ署名ヲ了シ首席代表ニ提出ス(日蘭移牒第一九七號參照))
十一月八日	長岡「ラ」兩氏會談 七日提出ノ委員會報告書ニ就キ議論ス。「ラ」ハ日本商人ノ輸入比率ニ付最大限二割ヲ主張シ、我方ハ商品輸入ノ基礎數量設定方及ヒ制限品目表以外ノ商品ニ對スル保障ヲ要求ス。 尙砂糖再輸出問題、海運問題等ニ就キテモ意見ノ交換ヲナス。 又本邦關稅引下ニモ言及ス。(日蘭移牒第一九七號參照)
十一月十三日	越田「ヘ」兩氏會談 輸入問題砂糖輸出問題ニ關シ意見ノ交換ヲナス。
十一月十四日	長岡「ラ」兩氏會談 輸入問題ニ關シ「ラ」氏ハ「ライセンス」制ハ和蘭國權ノ發

勳ニ依ルモノナレハ全然自由ナル立場ヲ採リタキ旨ヲ述ヘ
 右ニ對シ長岡氏ハ右ハ通商條約ニ反スル旨及ヒ蘭側ノ日本商
 人ノ取扱比率二〇%案ハ全然承認シ得サル旨ヲ答ヘ又砂糖問
 題ニ關シ「ラ」ハ其ノ再輸出禁止ノ必須條件ハ砂糖買付其ノ
 モノヨリモ重大ナル旨ヲ述ヘ又砂糖買付數量ニ關シ長岡氏ハ
 「リーゾナブル」ノ數字ノ提示ヲ要求セリ。(日蘭移牒第二
 ○三號參照)

十一月二十日 「サロン」制限令公布

「サロン」輸入制限令ハ本年二月十四日より十一月十三日迄
 既ニ九ヶ月ヲ經過セル所、更ニ一ヶ月ニ對スル制限令二十日
 公布、二十一日ヨリ實施サル。(有効期間十一月十四日より
 十二月十三日迄)(日蘭移牒第二〇九號參照)

十一月二十日 越田「へ」兩氏會談

越田氏ヨリ砂糖問題ニ關シ速ニ蘭側ヨリ提案アリ度旨ヲ述ヘ
 又日本商取扱比率問題ノ本邦側ニトリ重要ナル點ヲ主張ス。

十一月廿三日

(日蘭移牒第二一一號參照)

日蘭側ヨリ左記砂糖提案ヲナス。

(一) 日本政府ニ於テ左記數量ノ爪哇糖ノ買付方日本營業者ニ
勸奨セラレンコトヲ期待ス。

(イ) 一九三四年少クトモ三十萬「メトリック」噸

(ロ) 協定期間中毎年少クトモ三十萬「メトリック」噸

(二) 右ニ關聯シ協定期間中又ハ右期間終了後買付糖ノ數量カ
毎年十萬「メトリック」噸以上日本ヨリノ砂糖輸出ノ増
加ヲ招來セシメサルヘシトノ保障ヲ必要トス。

右ニ對シ越田ハ其ノ數量ノ減量及ヒ(二)ノ保障ノ困難ナル旨
ヲ主張セリ(日蘭移牒第二一六號參照)

十一月廿六日 越田「ヘ」兩氏會談

前例砂糖新提案(日蘭移牒第二一六號)ニ關シ越田氏ヨリ
其ノ數量ノ過大ナルコト及再輸出制限條件ノ同意不可能ナ
ル旨ヲ述フ(日蘭移牒第二九九號參照)

十一月廿九日 越田「へ」兩氏會談

藤柳ヨリ海運問題ニ關シ神戸ニ於テ海運業者ノ會商ヲ開催スルコトニ同意スル旨回答セリ。(日蘭移牒第二三四號參照)

十二月三、四日 越田「へ」兩氏會談

近ク日本側ヨリ提出サルヘキ輸出及輸入ニ關スル提案ニ關シ種々問答シタル後會商中止トナリタル場合ノ對策ニ關シ種々意見ノ交換ヲナス(日蘭移牒第二三九號參照)

十二月五日 未晒問題ニ關シ姉齒「ホ」會談

日本商人ノ比率ニ關シ姉齒氏ヨリ一九三三年ノ實績程度ノ比率ヲ主張セルニ對シ「ホ」氏ハ二割ヲ主張シ其レ以上ノ讓歩ノ至難ナル旨ヲ述フ。(日蘭移牒第二四六號參照)

十二月十日

越田「へ」兩氏報告書ニ署名提出ス

十一月十三日以降ノ越田「へ」會談ノ内容タル輸出ニ關スル問題及海運問題ニ關スル共同報告書ニ兩者署名ヲ了シ双方首席代表ニ夫々提出ス。(日蘭移牒第二四五號參照)

十二月十一日

長岡「ラ」兩氏會談

先ス長岡氏ヨリ大要左ノ如キ日本側總括的最後案ヲ手交シタル後之カ説明ヲナス(日蘭移牒第二四七號及第二四九號參照)

(一) 蘭印ヘノ輸入

(イ) 未晒綿布外六十餘品種ニ付キ其ノ輸入數量ヲ大体ニ於テ一九三二年、一九三三年又ハ同兩年平均ノ程度ニ制限スルコト

(ロ) 日本商人ノ輸入シ得ル日本商品ノ數量ハ一九三三年ニ於ケル當該日本商品ノ蘭印輸入數量ニ對スル日本商人ノ輸入シタル數量ノ割合ニ依ルコト

(ハ) 右制限品目以外ノ輸入品ニ對シテハ何等ノ制限禁止ヲナササルコト

(二) 關印ヨリノ輸出

日本政府ハ本協定期間(三年間)中爪哇五〇〇〇〇噸ノ
購入方ヲ勸奨スルコト

十二月十二日 未晒問題ニ關スル書面受理

經濟長官ヨリ未晒綿布ノ日本商輸入比率ヲ暫定的ニ二十五%又
ハ一九三三年ニ於ケル比率カ右割合ヨリ少キ場合ハ右割合ヨリ
少キ割合トスル意向ナル趣ヲ申越セリ(日蘭移牒第二五三號參
照)

十二月十三日 海運問題ニ關スル書翰受理

「ラ」氏ヨリ長岡氏宛書翰ヲ以テ日本四社側力商議開始前ニ基
本事項ヲ受諾スルコトヲ一致シテ拒絶セル趣ナルカ斯克テハ本
問題解決ノ希望ハ放棄ノ外無カルヘキヲ慮レル旨申越セリ(日
蘭移牒第二五六號參照)

十二月十四日 予ロ之輸入制限令實施

予ロ之輸入制限ニ關スル條例及右條例ニ基ク政府令公布十四日

ヨリ宣明サル（日蘭移牒第二六一號參照）

十二月十四日

湯運問題ニ關シ越田「ウエーヤ」兩氏會談

日本船會社側ノ基本原則討議拒絶問題ニ關シ會談、越田氏ハ日本當業者カ期限付脅迫的通牒ヲ拒絶セルハ其ノ提案ノ形式及時期ヲ無視セル點ニアリ、開會前ニ斯ル最後の通告ヲナスハ其ノ例乏シクスル仕打ニ憤慨スルハ當然ナル旨ヲ流フ（日蘭移牒第二六四號參照）

十二月十五日

蘭印側回答案内示

十二日十一日提出ノ日本側總括提案ニ對スル回答覺書ヲ内示ノ意味ニテ送付シ越セリ。右覺書ニ於テ日本提案ハ蘭代表部ノ受諾シ得サル所ナリトテ其ノ理由ヲ掲ケ、且ツ詳細ナル註釋ヲ記載ス。尙海運問題ニ關シテモ日本船會社側カ基本原則ノ討議ヲ拒絶シタルヲ難シ居レリ（日蘭移牒第二六二號及第二六三號參照）

十二月十七日

長岡「ラ」兩氏會談

7

十五日送付シ來リタル蘭側回答覺書内容ニ關シ長岡氏ヨリ意見ノ陳述ヲナシ海運問題ニ關シテハ双方共ニ神戸會商開始ノ爲充

分ノ轉運ヲナスコトトフ
尙會商休止ノ際ノ宣言案等ニ就テモ意見ノ交換ヲナス（日蘭移
牒第二七一號參照）

十二月十八日 未晒綿布輸入制限問題ニ關シ而蘭氏「ホ」氏ト折衝許可數量ヲ
一九三三年ノ輸入量トシ之ヲ自由競争ニ委シ日本商ノ比率ハ二
割五分トスルコトニ大体諒解ナル（日蘭移牒第二七七號參照）

十二月廿一日 長岡「ラ」氏會談

會商休止ノ際ノ宣言案ニ關シ長岡氏ヨリ宣言案ハ之ヲ發表スル
コトナク又何等ノ「コムミュニケ」ヲモ出サス此ノ嚮引揚クル
コトトシ度キ旨ヲ述ヘ「ラ」氏モ大体之ヲ承諾ス（日蘭移牒第
二八二號參照）

尙二十二日右ニ異存ナキ旨通告シ來ル（日蘭移牒第二八三號參
照）

十二月廿二日 未晒綿布輸入制限問題ニ關シ而蘭氏「ホ」氏會談（日蘭移牒第
二八八號參照）

十二月廿四日 長岡氏越田氏同伴ニテ暇乞ノ爲總督ヲ訪問ス

日蘭移牒第二二四號

(一九五)

長岡代表(十一月廿六日着)

往電(日蘭移牒第二一八號)末尾ニ關シ

一、晒綿布

現行制限令ノ輸入許可數量中和蘭品ノ爲ニ留保シタル數量ト和蘭品ノ實際
上ノ輸入數量(一部推算ヲ含ム)トノ差額ノ半數ヲ自由割當數量ニ追加シ
之ヲ日本品ト第三國トノ輸入實績比率ニ依リ配分シ日本品ノ輸入許可數量
ヲ算出シタルモノナリ

一、捺染綿布、色⁹染綿布及織絲

右等三品種ハ曩ニ我方ノ提案シタル十四品種中ニ於テ?一九三三年ヲ主張
シタルモノニシテ右ノ一九三二年ノ輸入ハ何レモ一九三三年ヨリ多額ナレ